

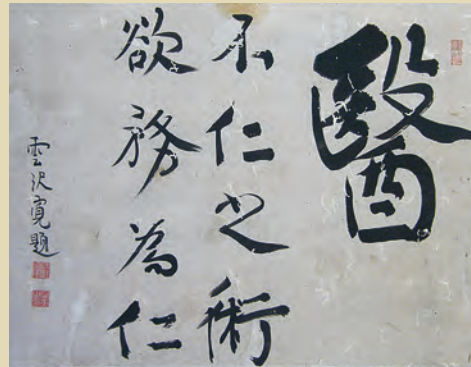
## 中津医学史年表

- 寛永17年 (1640) 村上宗伯、大坂の古林見宜に師事し、帰国後中津諸町で開業。
- 寛保元年 (1741) 晒されていた刑死体を観察した根来東叔、「人身連骨真形図」を作成。
- 明和8年 (1771) 前野良沢・杉田玄白ら、刑死体解剖を見学し、翌日からクルムスの解剖書の翻訳を江戸の中津藩中屋敷内で開始。
- 安永3年 (1774) 翻訳書『解体新書』刊行。
- 文化7年 (1810) 藩主奥平昌高公、藩士神谷弘孝(源内)に命じて、『蘭語訳撰』(和蘭辞書)を刊行。
- 文政2年 (1819) 藩医村上玄水、藩主の許可を得て、近在の医師56人が見守る中、人体解剖。
- 文政5年 (1822) 奥平昌高、藩医大江春塘、『バスタールド辞書』刊行。
- 嘉永2年 (1849) 藩医辛島正庵ら、長崎で痘苗を入手し、中津で種痘を実施。
- 安政5年 (1858) 福澤諭吉、江戸の中津藩中屋敷内に蘭学塾を開く。
- 文久元年 (1861) 種痘を広めるため、民衆の寄付等により上勢溜に医学館開設。
- 慶応4年 (1868) (明治元年) 福澤諭吉、蘭学塾を「慶應義塾」と改称。藩医田代基徳、西洋医学所(江戸)に学び、翻訳書『切断要法』を出版。
- 明治4年 (1871) 旧藩医大江雲沢ら4名、小倉県より「医学校取立方」に命じられる。
- 明治6年 (1873) 片端町に医学校及び病院開設。校長大江雲沢、教頭大江春水、院長藤野玄洋。
- 明治8年 (1875) 小幡英之助、日本最初の歯科試験を受験し、歯科医第1号となる。
- 明治36年 (1903) 田代基徳の養子義徳、東京大学に整形外科を開設し、初代教授となる。
- 明治39年 (1906) 中津の医師田原春塘の養子淳、ドイツ留学中に心臓刺激伝導系に属する房室結節を発見、「田原結節」または「アショッフ・田原結節」と名付けられる。

### 村上医家史料館・大江医家史料館 観覧者利用案内

- ◆ 開館時間 午前9:00～午後5:00(入館は午後4:30まで)
  - ◆ 休館日 毎週火曜日(ただし、祝祭日の場合は翌日)
  - ◆ 観覧料 一般 210円(団体30人以上120円)  
大学・高校生 100円(団体30人以上 60円)  
中学生以下 無料
- (2館共通観覧料)
- 一般 300円(団体30人以上200円)
  - 大学・高校生 150円(団体30人以上100円)

# 中津市歴史民俗資料館 分館 大江医家史料館



大江医家医則第一「医は仁ならざるの術 務めて仁をなさんと欲す」



大江医家史料館



大江医家史料館裏の薬草園

〒871-0066 大分県中津市906番地(鷹匠町)  
TEL 0979(22)0049

# 中津市歴史民俗資料館 分館 村上医家史料館



村上医家の版画 松本古寿作



薬局



薬籠を運ぶ駕籠

ランビキ(蒸留器)

〒871-0049 大分県中津市1780番地(諸町)  
TEL 0979(23)5120

## 中津の医学・蘭学史

前野良沢・杉田玄白・中川淳庵らは、明和8年(1771)3月4日、江戸小塚原で解剖を見学し、翌日より中津藩中屋敷の良沢の住まいでクルムスの解剖書『ターヘル・アナトミア』の翻訳に着手しました。4年後の安永3年(1774)一応の翻訳が終わり『解体新書』として刊行されました。今その地には、「蘭学の泉はここに」と刻まれた蘭学創始の記念碑が建てられています。その碑の横には、中津藩士の福澤諭吉が創立した「慶応義塾発祥の地」の碑も建てられています。

中津の蘭学は、前野良沢に始まり福澤諭吉の頃を最後として終わりますが、その間、多くの蘭学者・蘭方医を生み出しました。シーボルトと面会したいがために45歳で隠居した中津藩主奥平昌高公は、自身蘭学を学び、家臣の神谷弘孝(源内)に命じて『蘭語訳撰』(1810年刊行・日本語→オランダ語辞書・7072語収録)、次いで大江春塘に命じて『バスタールド辞書』(1822年刊行・オランダ語→日本語辞書・7249語収録)を刊行しました。前野良沢の次世代ともいう時期に「ズーフ・ハルマ」にさきがけ豊前中津藩で日蘭・蘭日辞書が刊行された意義は大きいものがあります。

文政2年(1819)、村上玄水が中津で、九州でも初期の人体解剖を行っています。その他にも、多数の蘭学者・蘭方医や華岡流を学んだ大江雲沢などが活躍しました。明治に入ると、日本で最初の西洋歯科医小幡英之助、外科学のパイオニア田代基徳、整形外科の開祖田代義徳、心臓刺激伝導系に関する研究で有名な田原淳などを輩出しています。

### 中津と医家史料館

前野良沢・福澤諭吉のほか多くの先哲を輩出した中津には、江戸時代からの医学と蘭学の膨大な史料が残されています。平成8年には、1640年から現在まで連続と続く村上医家の所蔵品とその建物をもとに中津市歴史民俗資料館の分館として“村上医家史料館”を開設しました。平成16年には、江戸時代に御典医を勤めた大江家の旧邸を史料館として改装しました。

村上・大江の両医家史料館では、市内に残されている医学をはじめ関係資料の収集・保存・展示を行っています。中津の医学・蘭学・文化の歴史を通して、前野良沢や福澤諭吉を生み出した郷土の学問の系譜と歴史を掘り起こし、中津に関するより一層の理解を目指しています。今後、生涯学習の場として広くご利用ください。

